

システム情報工学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	94 ※ 4 (84)	181 ※ 6 (117)	41 ※ 15 (46)	180 ※ 6 (117)	40 ※ 14 (39)	160 ※ 7 (123)	135 ※ 3 (94)	12 ※ 4 (18)	
	3年次 編入学	— ※ — (—)	16 ※ 6 (18)	6 ※ 4 (10)	16 ※ 6 (17)	6 ※ 4 (10)	17 ※ 5 (25)	11 ※ 2 (17)	5 ※ 3 (6)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	— (—)		1 (—)		11 (11)		103 (88)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	110 (67)			213 (183)			21 (19)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	— (—)	1 (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	退学者	— (—)	72 (54)	4 (1)	— (—)	6 (4)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・（ ）は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 システム情報工学研究科の活動

傘下6専攻の主体性を維持しながら毎月の運営委員会および運営懇談会を軸に全体の情報交換と協調を図る基本姿勢は有効に機能した。この体制の下に、入試、課程教育、中間審査、学位認定等の本来業務はすべて滞りなく実施された。中間評価・学位審査の手順ならびに転研究科希望学生の受け入れに関して内規が改定・整備された。また、各種委員会の先導により、学生の就職支援、広報活動等も順調に行われた。来年度の国立大学法人化を控え、中期目標・中期計画の策定、新たな研究科運営体制の検討、および平成17年度概算要求のとりまとめがなされた。これらはいずれも今後の研究科運営の方向性を決定付ける意味で極めて重要であり、運営委員および学系長を中心とする研究科構成員の多大な努力が結実したものである。

2 教員の教育業績評価の状況

当研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会の努力により、授業分担・学生指導実績等を根拠とする教育業績評価の基準が本年度中に確定する見通しである。これは、ただちに所属教員全員に公表され、来年度初頭より研究業績と併せて教育業績の評価資料が蓄積される。全学の体制を考慮しつつ、遅くとも平成17年度以降は総合的な業績評価を教員の処遇に反映させて行きたいと考えている。

3 自己評価と課題

大学院重点化の大方針に即して当研究科の現状を分析し、教育課程再構築の必要性、教員の研究活動の孤立化等の問題点を抽出した。これらの改善に向けた第1期の努力目標として次の各項が挙げられる。すなわち、

- (1) 学類からの一貫カリキュラムに沿い、前期課程のスクーリングを強化すること
- (2) 専攻の枠を超えた研究グループの形成によって研究の意義を高め、規模を拡大すること
- (3) 学生を上記研究グループに参加させる形で後期課程の質的量的充実を図ること

の3項目である。以上を実現するために必要な研究科運営体制の改組は、現在概算要求中である。

4 その他特記事項

平成15年度末に総合研究棟が竣工された。これにより、研究スペース不足の悩みは大幅に軽減するものと期待される。その新営準備は、数理工学科学研究科との合議に基づいて進捗中である。